

紙稿原一デニサ社星文

後傳の意にても未だ世に伝へたる
 かしこ同致とす。二後世に在るもの
 愈々て丸く
 新は標を置かずや。翁。此の事を用
 かし。安日正秀氣に習て曰て其周唐の武
 春彦唐の武春と命辨せし。今も唐中
 に方。其丸唐の武春と命辨せし。今も唐中
 周に引置し。此の事を用
 行用所予中条也。此言に於て西彦引唐と辨
 ふ。有せし。此言、即之を言。西彦と辨
 し。其山彦の古表号を就て之を撰し。す
 べ成りす。蓋し其山彦。其周の文彦と
 る。此言、其周の武彦と命辨せし。今も唐中
 也。翁曰。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 唐。此言、其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 走マ。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 翁曰。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 然し。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 一曰。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中
 稿也。其周唐の武彦と命辨せし。今も唐中



(10)

紙稿原一テンサ社星文

No.

月序まうらなきを有し、瑞行して是の
 香も入る。翁は一期に之を功と爲す
 野多(五)九(七)ナシ
 小、(一)叔時若

(左) 枝(文) 討(之) 禁(之) 二(百) 回(下) 之(を) 於(マ) 子
 子(一) 子(レ) 統(其) 衛(再) 其(瓦) 取(を) 下(す)、 翁
 に(ま) 弱(す) へ(女) 用(瓦) を 送(下) 也
 後(原) 之(草) 也

